

# 開発ツールのインストール

最初に JDK をインストールし、次に IDE をインストールする、という手順になります。

## 1. JDK のインストール

### JDK のダウンロードとインストール

JDK は次の URL でオラクル社のウェブページからダウンロードします。

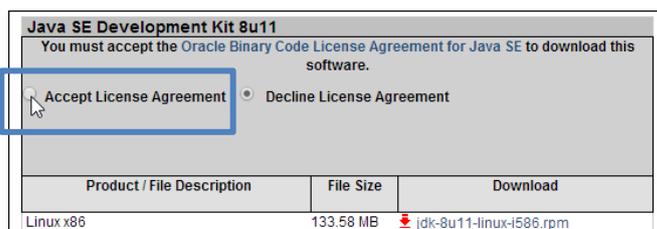
<http://www.oracle.com/technetwork/java/javase/downloads/index.html>

なお、最初に <http://www.oracle.com> を開いて、[downloads] → [Java] → [Java SE] と選択しても同じページにたどり着くことができます。

① NetBeans とのセット（右側）ではなく、左側の JavaSE 単独を選ぶ



② オラクル社のライセンス規定に同意することを示すためチェックをいれる



③ ファイルをダウンロードする

ファイルを選んでダウンロードしますが、Windows OS には 32 ビット版と 64 ビット版があります。X86 と書いてあるのが 32 ビット用、x64 と書いてあるのが 64 ビット用です。「X86」が値は大きいのですが、これは、昔、CPU の型番を 8086 などといった名残りです。

Java SE Development Kit 8u11		
You must accept the Oracle Binary Code License Agreement for Java SE to download this software.		
Thank you for accepting the Oracle Binary Code License Agreement for Java SE; you may now download this software.		
Product / File Description	File Size	Download
Linux x86	133.58 MB	<a href="#">jdk-8u11-linux-i586.rpm</a>
Linux x86	152.55 MB	<a href="#">jdk-8u11-linux-i586.tar.gz</a>
Linux x64	133.89 MB	<a href="#">jdk-8u11-linux-x64.rpm</a>
Linux x64	151.65 MB	<a href="#">jdk-8u11-linux-x64.tar.gz</a>
Mac OS X x64	207.82 MB	<a href="#">jdk-8u11-macosx-x64.dmg</a>
Solaris SPARC 64-bit (SVR4 package)	135.66 MB	<a href="#">jdk-8u11-solaris-sparcv9.tar.Z</a>
Solaris SPARC 64-bit	96.14 MB	<a href="#">jdk-8u11-solaris-sparcv9.tar.gz</a>
Solaris x64 (SVR4 package)	135.7 MB	<a href="#">jdk-8u11-solaris-x64.tar.Z</a>
Solaris x64	93.18 MB	<a href="#">jdk-8u11-solaris-x64.tar.gz</a>
Windows x86	151.81 MB	<a href="#">jdk-8u11-windows-i586.exe</a>
Windows x64	155.29 MB	<a href="#">jdk-8u11-windows-x64.exe</a>

#### ④インストールする

ダウンロードしたファイルをダブルクリックしてインストールを開始します。



JDK のインストールが終了すると JRE のインストールになります。[次>] を押します。



⑤JRE のインストール後に、終了画面が表示されたら [閉じる] を押す



## 2. Eclipse のインストール

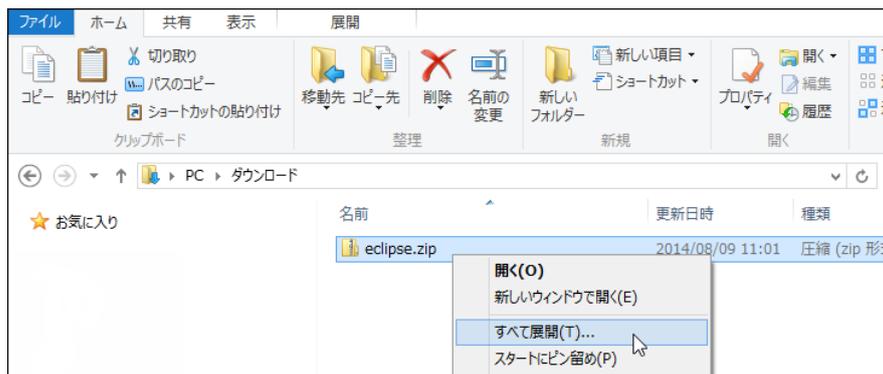
Eclipse のダウンロードには次の 3 つの方法があります。特に理由がない限り本書のサポートウェブからダウンロードすることをお勧めします。

ダウンロード先	言語	特徴
本書のサポートウェブ <a href="http://www.k-webs.jp">http://www.k-webs.jp</a>	日本語版	設定ファイル付属 標準的なプラグインセット (173MB)
eclipse 開発元 <a href="http://eclipse.org">http://eclipse.org</a>	英語版	標準的なプラグインセット (160MB)
日本語化ツール開発元 <a href="http://mergedoc.sourceforge.jp/">http://mergedoc.sourceforge.jp/</a>	日本語版	設定ファイルなし JavaEE 用のプラグインセット (440MB)

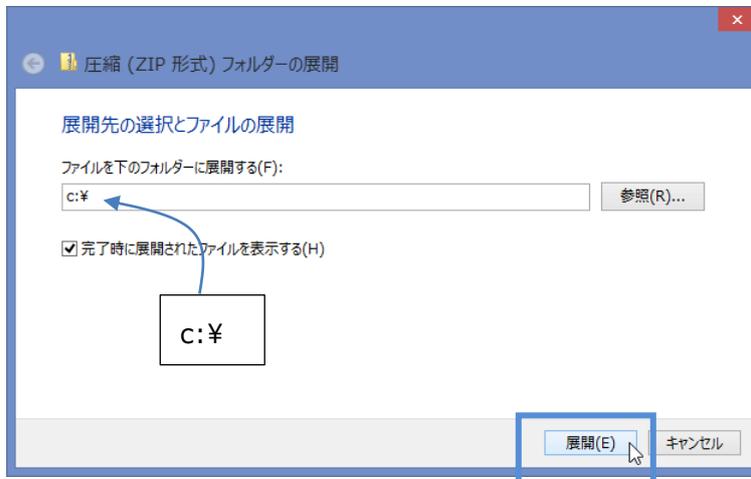
サポートウェブからダウンロードできる Eclipse には、設定を簡単にする設定ファイルを添付しています。以下ではサポートウェブからダウンロードした Eclipse のインストール方法について解説します。

### ファイルを解凍する

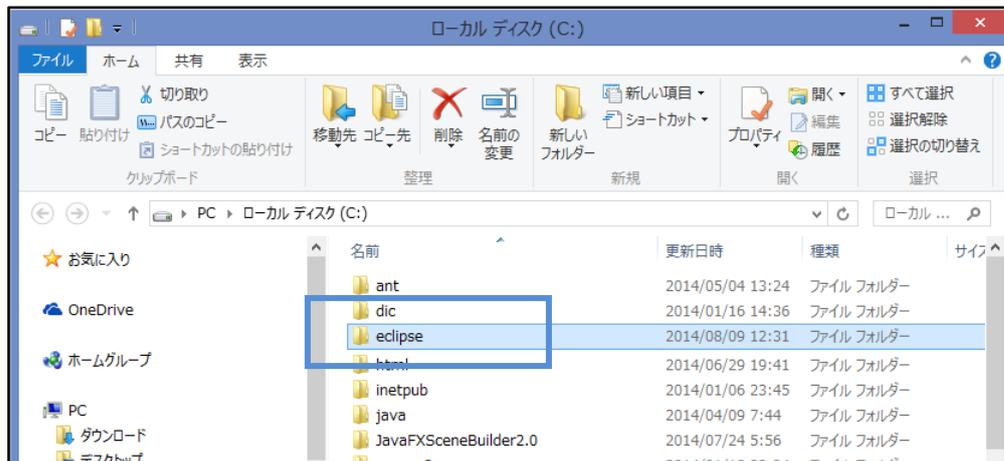
①ダウンロードした eclipse.zip をマウスの右ボタンでクリックして [すべて展開] を選ぶ



- ② [圧縮フォルダの展開] ダイアログが開く
- ③ [ファイルを下のフォルダに展開する] の欄には、c:¥ や d:¥ などドライブ直下の場所を指定する(理由は「補足」を参照。図では c:¥ を指定している)
- ④ 次に [展開] ボタンをクリックする



- ⑤ Cドライブの直下に eclipse フォルダができる



Eclipse には特別なインストール作業はありません。解凍するだけです。ただし、いくつかの設定をしておくことで使い易くなるので、次節はその手順を解説します。

#### (補足) 圧縮ファイルをドライブ直下に解凍する理由

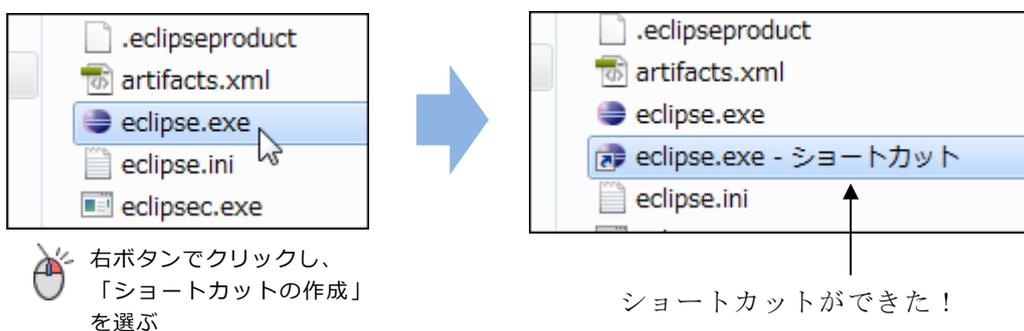
eclipse フォルダの中には多くのサブフォルダとファイルがあります。そのため末端のサブフォルダの中にあるファイルは、ファイルを指す文字列の長さが Windows システムの制限を超えてしまう場合があります。これは Linux などほかのシステムでは該当しない Windows 固有の制限です。パスの長さが制限を超えると正常に解凍できません。そこで、展開先フォルダは c:¥ (推奨) などにしてパス文字列を短くするのです。

### 3. 起動用アイコンの作成

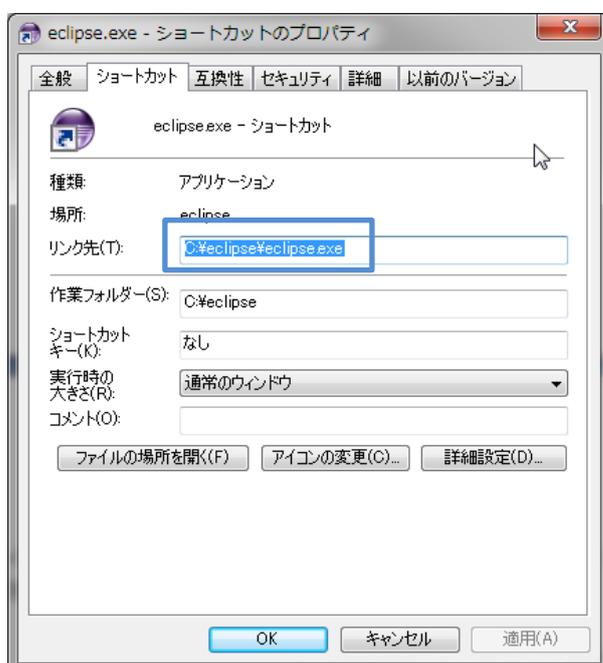
Eclipse で作成したプログラムはワークスペースという専用のフォルダに格納されます。そのため、起動時にワークスペースの場所を Eclipse に知らせる必要があります。ただ起動の度に指定すると面倒ですから、ワークスペースの場所を書き込んだ起動用アイコンを作っておきましょう。

#### ショートカットの作成

- ① Eclipse のシステムが入っている eclipse フォルダを開きます
- ② フォルダ内にある eclipse.exe を右ボタンでクリックし、「ショートカットの作成」を選ぶ



- ③ ショートカットアイコンをマウスの右ボタンでクリックし、[プロパティ] を選択する
- ④ [ショートカットのプロパティ] ダイアログが開く



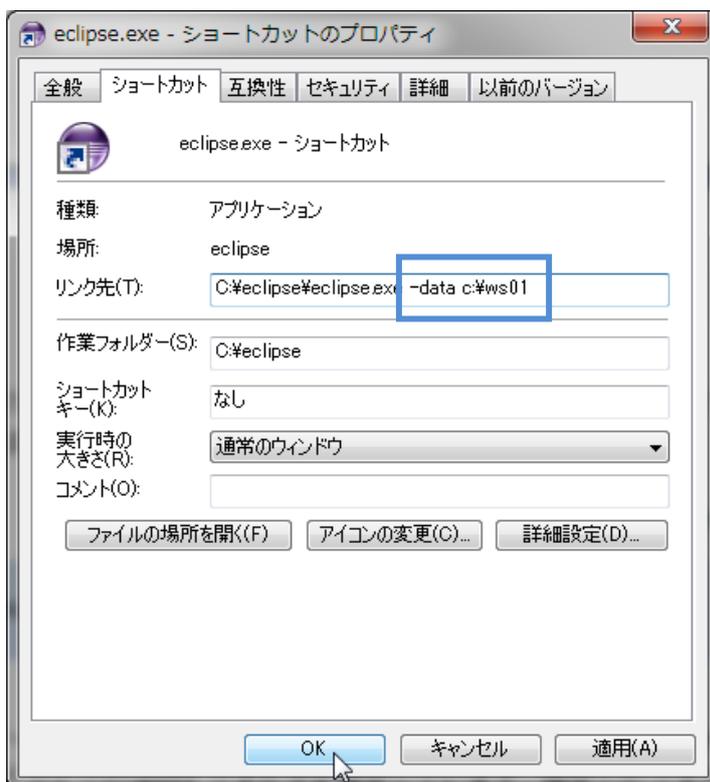
- ③ダイアログの中ほどにある [リンク先] の入力欄を一度クリックする  
 ④次の青字の記述を追記する

半角空白で区切る。(□ は半角空白を表す)

C:¥eclipse¥eclipse.exe □ -data □ c:¥ws01

**-data** は作ワークスペースを指定するためのキーワードです。任意のフォルダを指定できます。例では C ドライブの ws01 フォルダを指定しています。指定したフォルダをあらかじめ作成しておく必要はありません。ない場合は、Eclipse が自動的に作成します。

ワークスペースには、自分の環境に適したフォルダを自由に指定できます。例えば USB メモリなどを当てると、データを持ち運ぶことができます。

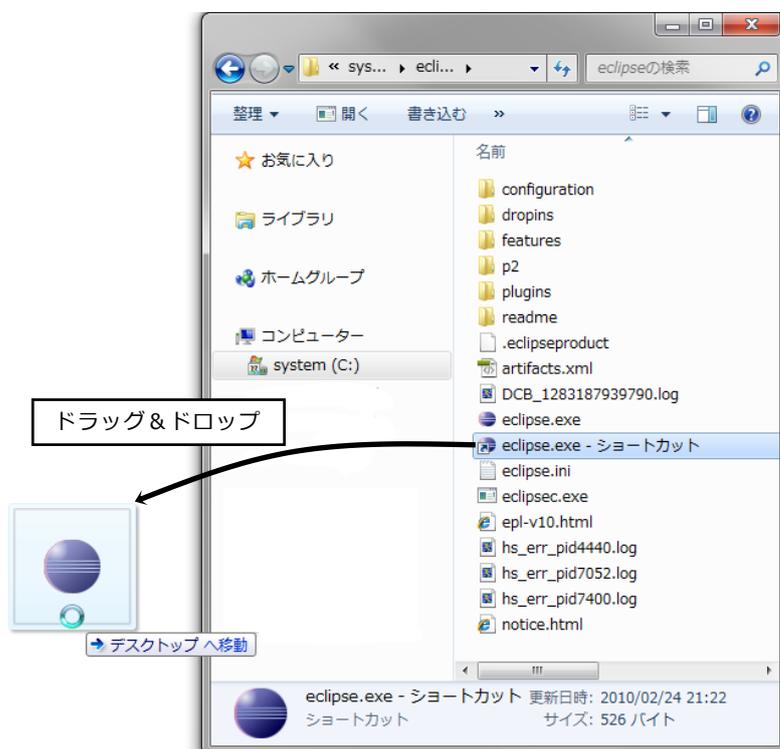


**-date** ではなく **-data** です  
 間違いやすいので気を付けて下さい

⑤ 起動用アイコンをデスクトップへ移動する

設定の終わったアイコンをデスクトップへドラッグ・ドロップする

これによりデスクトップ上のアイコンを使って Eclipse を起動できるようになる

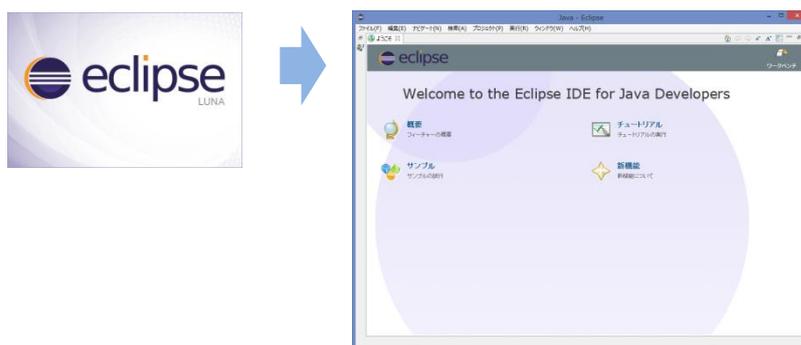


#### 4. 設定ファイルの読み込み

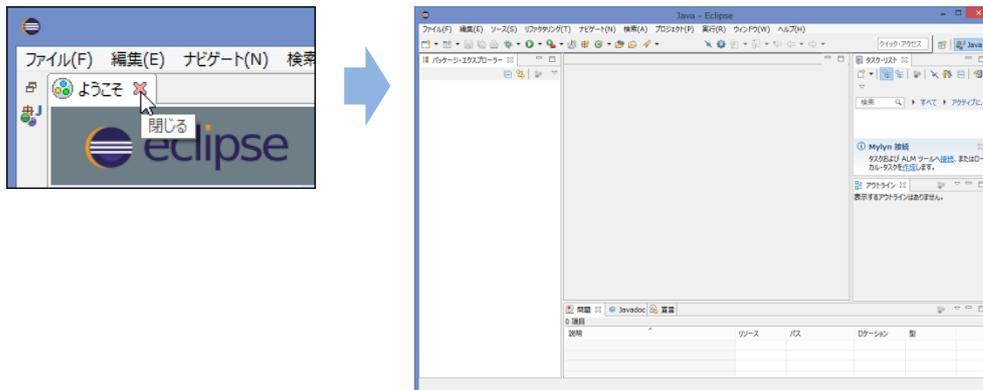
Eclipse を起動して、設定ファイルを読み込みます。設定ファイルは使用する文字フォントやプログラムの表示方法などを指定するファイルです。これを読み込んでおくことですべての設定を一度に済ますことができます。

① Eclipse の起動用アイコンをダブルクリックして Eclipse を起動する

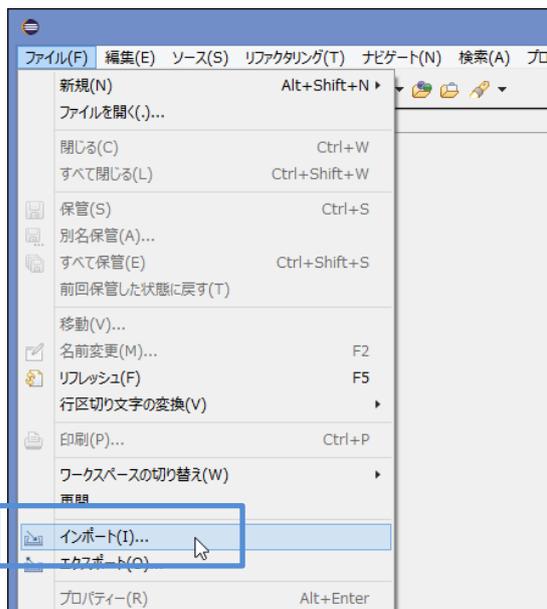
図のような「ようこそ」の画面が表示される



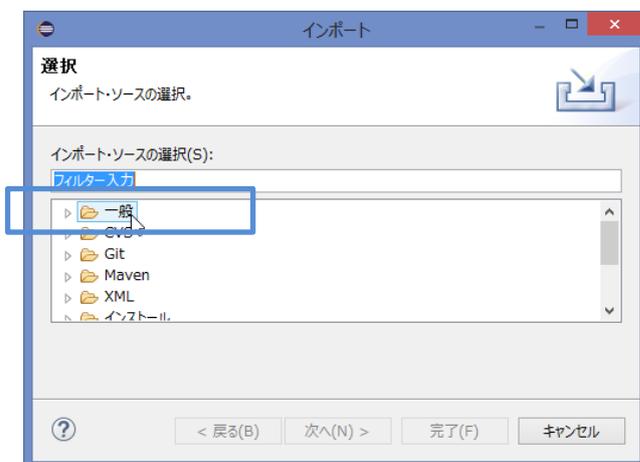
③ [ようこそ] タブの×印をクリックして閉じる



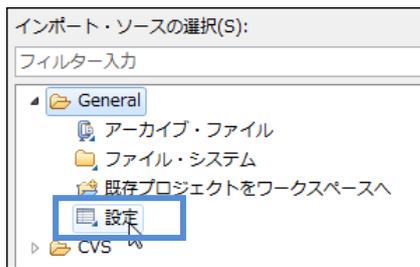
① Eclipse のメニューで [ファイル] ⇒ [インポート] と選択



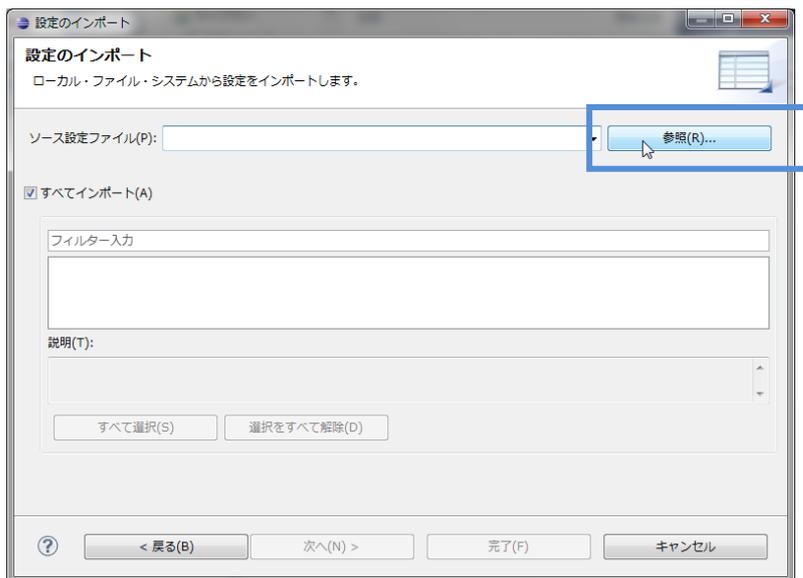
② 「インポート・ソースの選択」ダイアログで [一般] をダブルクリックする



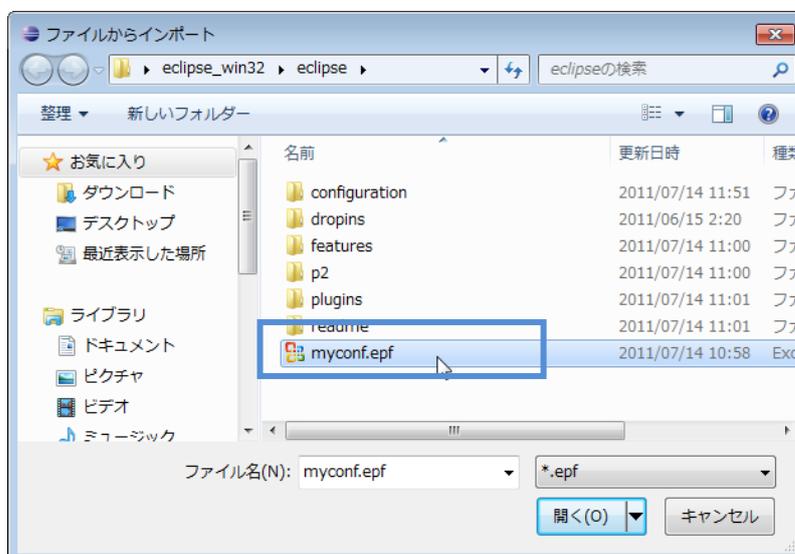
- ③ 表示される選択枝の中から「設定」をダブルクリックする



- ④ 「設定のインポート」ダイアログが開くので「参照」をクリックする

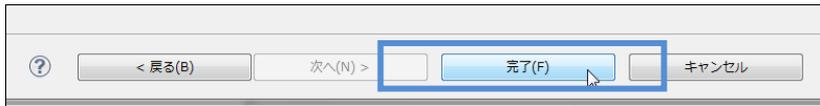


- ⑤ 「ファイルからインポート」ダイアログが開くので、eclipse フォルダ内にある **myconf.epf** を選択し、「開く」をクリックする



**eclipse フォルダ**は Eclipse の本体が入っているフォルダです。  
 ダイアログでは、最初に、自動的にこのフォルダが開かれます。

- ⑥ 「設定のインポート」ダイアログに戻るので、[完了] をクリックする

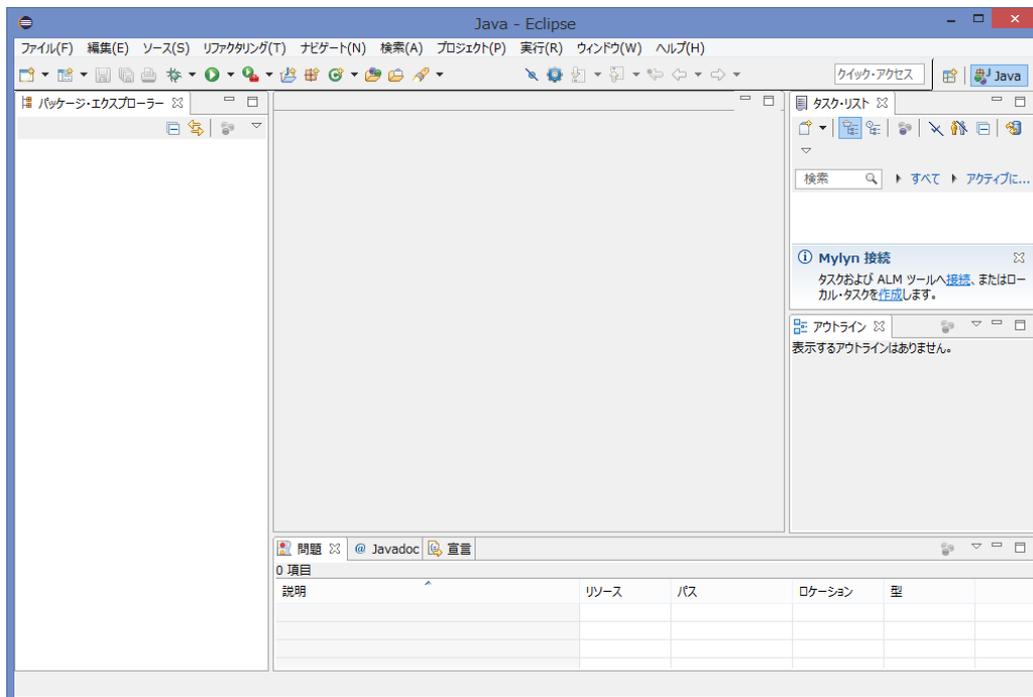


以上で設定は終わりです。

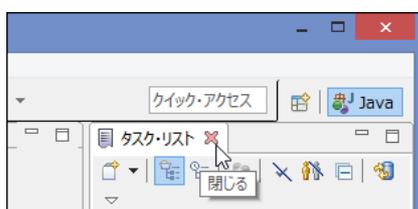
ただ、使い易くするために、あと少しだけ設定を追加しましょう。

## 5. 不要な内部ウィンドウを消しておこう

Eclipse の画面は 4 分割されていますが、普段あまり使わない内部ウィンドウは閉じておいた方が使いやすくなります。



内部ウィンドウの中にはタスクリストとアウトラインのタブが入っているのでひとつずつ閉じます。タブの×印をクリックして閉じてください。



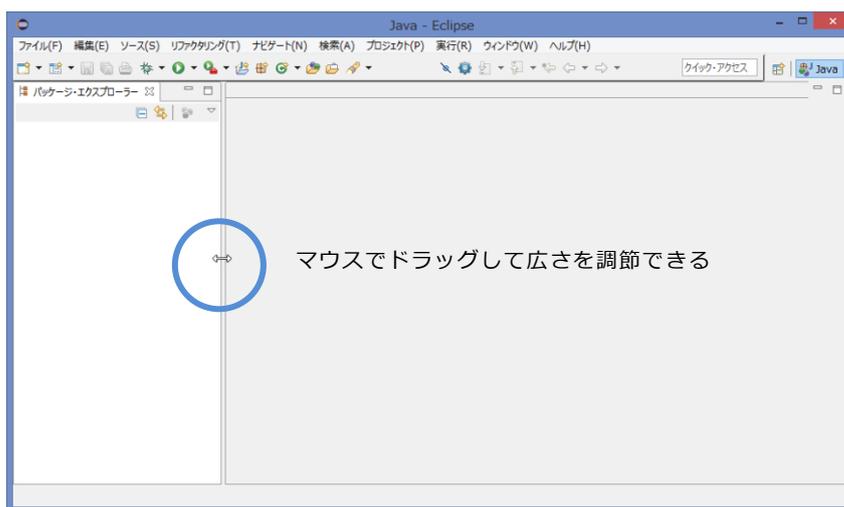
タブの×印をクリックする

下段には [問題] [Javadoc] [宣言] のタブがありますが、これらも当面は不要なので閉じてください。

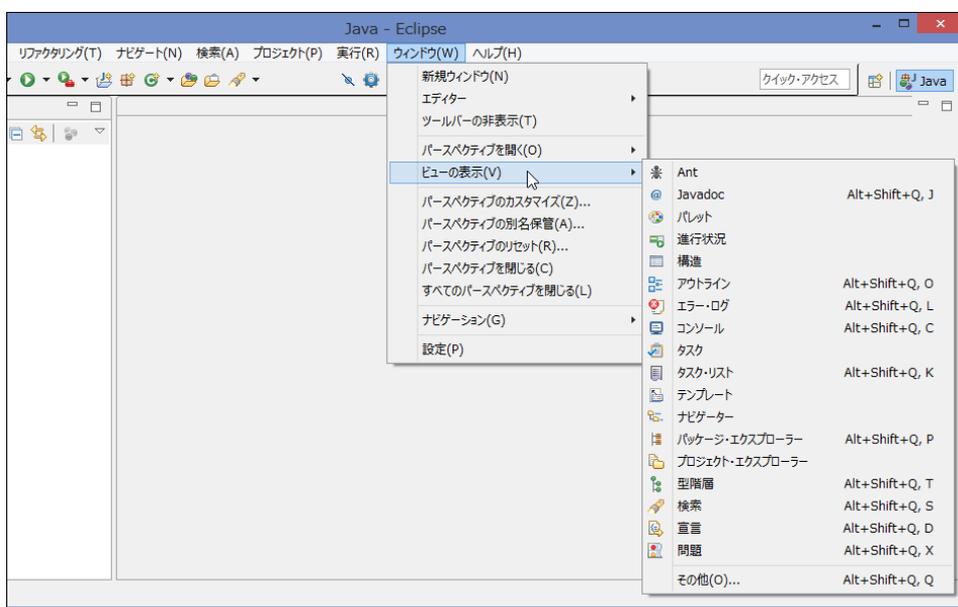
不要な内部ウィンドウをすべて閉じると次のような画面になります。

画面の左側を**パッケージエクスプローラ**と言い、作成したプログラムの一覧が表示されます。右側はプログラムを作成したり表示したりするためのプログラムエディタ領域です。

領域の境はマウスでドラッグして広さを調節できます。一般に Eclipse の内部 Window はどれもサイズ変更や最小化など一般のウィンドウと同じ操作が可能です。



なお、閉じてしまったタブはメニューで [ウィンドウ] → [ビューの表示] と選択すると、もう一度表示させることができます。



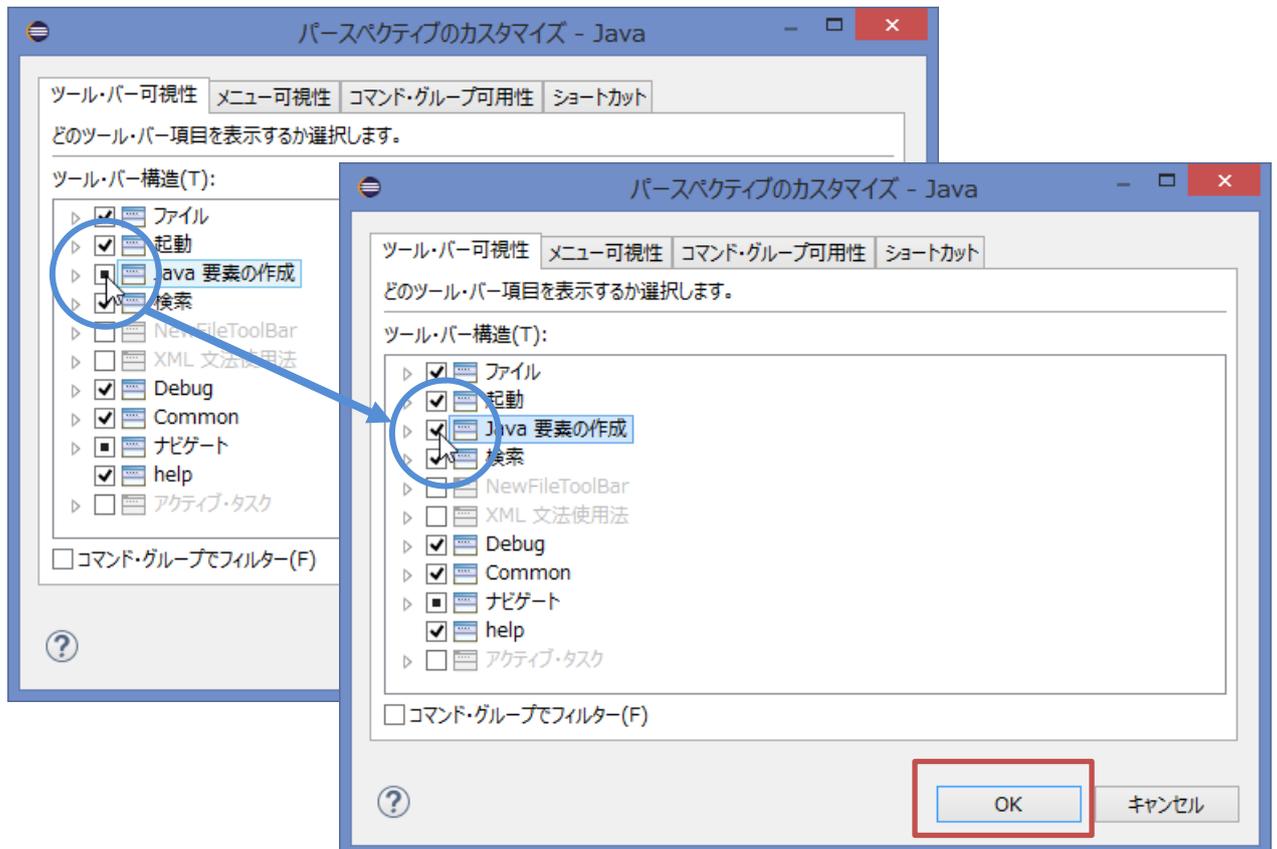
## 6. 新規プロジェクト作成ボタンを表示させる

本書ではプロジェクトをしばしば作成するので、このボタンがあると便利です。Eclipseの最近のバージョンでは、設定をしないと表示されません。

- ①メニューで [ウィンドウ] → [パースペクティブのカスタマイズ] と選択する



- ② [Java 構成要素の作成] の青い四角を 2 度クリックしてチェック (✓) に変更する  
 ③ [OK] をクリックする



④新規 Java プロジェクトボタンが表示されます。



## 【まとめ】

ここまでの要点は次の4つです。

- ・ Eclipse の起動アイコンを作成し、ワークスペースの指定を書きこんだ
- ・ 設定ファイルを読み込んだ
- ・ [新規 Java プロジェクト] ボタンを表示するようにした
- ・ Eclipse を起動し、不要な内部ウィンドウを消した

新しいワークスペースを作成するたびに、これら4つの作業が必要になることを覚えておいて下さい。

以上の手順でインストールと設定を終えたら「わかりやすい Java 入門編」の16～26 ページの解説を飛ばして、27 ページから学習してください。